



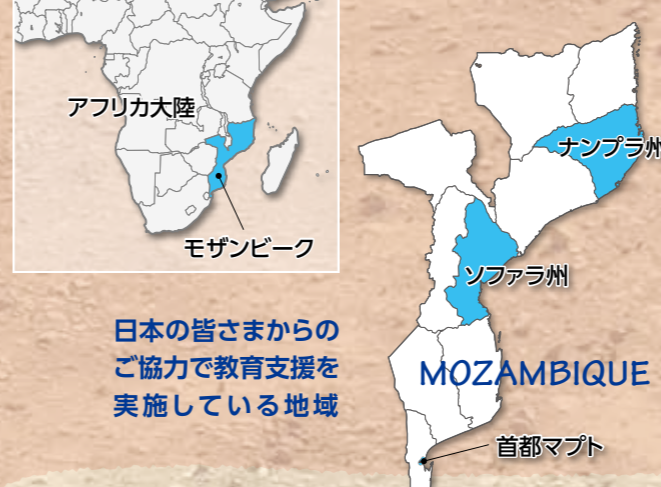
モザンビーク活動報告

2022年6月
～2023年5月

日本の皆さまからのあたたかいご寄付により、ユニセフはモザンビークの子どもたちに就学前教育を提供する取り組みや、初等教育の質の向上と男女平等の促進を支援してきました。

モザンビークにおいて、5歳未満の子ども約500万人のうち、就学前教育を受けている子どもはわずか5%ほどにすぎません。乳幼児期は脳の発達がとても速く、この時期に受ける教育が、その後の人生の基盤を築く上で重要な役割を果たし、子どもたちの可能性が大きく広がることが知られています。また、モザンビークでは、過去10年間で初等教育の就学率は大幅に改善され、2021年時点でほぼ100%に達しましたが、卒業率はまだ50%に届いていません。特に、皆さまのご寄付で支援を実施しているナンブラ州とソファアラ州は、教育の質に関する様々な課題を抱える地域です。教員や学習教材の不足、1人の教員が担当する児童数の過多に加えて、男女間の卒業率の格差など、改善すべき課題が山積んでいます。

皆さまの継続的なご協力が、こうした困難に直面する子どもたちを支える大きな力となっております。心より御礼申し上げます。



日本の皆さまからのご協力で教育支援を実施している地域

ユニセフ・モザンビーク事務所では、X(旧Twitter)を通じて、日本の皆さまのご寄付を活用した支援プログラムの進捗状況や子どもたちの様子を配信しています。ぜひご覧ください!

www.unicef.or.jp/sfa/report/report_mztwitter.html



Report

1

教育の基礎を築く「就学前教育」

ユニセフはモザンビーク教育省と協力し、小学校入学前の子どもたちが基礎的な学習スキルを身につけるための短期集中就学準備プログラムを展開しています。この1年間で、5～6歳の**子どもたち8,020人**が、120時間(1日3時間、週5日を8週間)のプログラムに参加しました。プログラムの目的は、効果的な学習を促進するとともに、現地語しか話せない子どもたちが公用語のポルトガル語を理解できるようになること



短期集中就学準備プログラムに参加する子どもたち

です。現地語とポルトガル語の両方で進行されるプログラムの中で、子どもたちはグループ活動を通じて情緒や社会性を育み、数え方を学びポルトガル語を使って遊ぶことで、基本的な算数とポルトガル語を身につけました。プログラム修了後は、参加したすべての子どもたちが小学校に入学することができました。

短期集中就学準備プログラムの実施には、就学前教育の重要性を理解する保護者と、適切な授業スキルを持った教員の存在が欠かせません。プログラムに参加した**子どもたち8,020人の保護者**は、4週間・全13回の講習会に参加。就学前の準備の重要性や乳幼児期の脳の発達について学び、好奇心を満たす刺激の必要性に加え、子どもへの愛情の示し方や注意の仕方、子どもの自信や自尊心を育む方法、基本的な算数や言葉の教え方などへの理解を深めました。また、**小学1年生の担当教員115人**は、就学前の子どもたちがスムーズに学校生活に適應できるように、遊びを取り入れた指導方法や小学校低学年向けの学習アプローチ、地域で手に入る材料を使った教材の製作方法などについて研修を受けました。



「遊び」も、大切な授業の一環です。

ユニセフ・モザンビーク事務所から御礼の動画が届いています! ぜひご覧ください。
https://unicef.jp/sfa21_v



Report

2

初等教育の継続と、卒業後の未来に向けて

教育水準の向上を目指して

子どもたちが質の高い教育を受けるためには、教員の優れた指導力と適切な学校運営が不可欠です。ユニセフは、以下の研修を通じて学校教育関係者を支援しました。

- 教員の指導力向上を目的とした算数キットや読み物教材(それぞれ教員用と児童用)を提供。**229校の教員**が、これらの効果的な活用方法を学びました。
- 190校の校長**が、良い学校環境を整えるために必要な教育学や住民参加型の学校運営、財務管理、情報通信技術(ICT)などに関する30日間の研修を受講しました。
- 地域住民などが参加する**学校運営委員会のメンバー 2,414人**が、早すぎる妊娠や児童婚の事例把握と適切な対処法、児童の中退や欠席を防ぐための方法などについて学びました。



学校運営における役割と責任を学ぶ学校運営委員会のメンバー

安全で清潔な学校環境を整備する

- 手洗い場を備えた男女別トイレが設けられ、**6,622人の児童**が安心してトイレを利用できるようになりました。ユニセフは衛生習慣を普及するために、各校の子どもクラブのメンバーに対し手洗い、髪の毛や爪などの身だしなみ、歯磨き、生理などの話題も含む衛生に関する学習会も行っています。
- 地域住民も使える手洗い場が作られた**36校**では、教員や地域の人々で構成される水委員会が設けられ、メンバー 204人は、地域住民からの水の使用料の徴収や財務管理、定期的なメンテナンスと修理方法、公衆衛生など、地域主導で手洗い場を維持・管理するための知識と技術を学びました。
- 新たに手洗い場が設置された**17校**では、**17,800人**の児童や地域住民が安全な水を使用できるようになり、清潔な学校環境も着実に整備されています。



手洗い場を備えた児童用のトイレ

学校クラブを通してライフスキルを身につける

- 小学校74校**の444人の児童が、子どもの権利とライフスキル*の普及・啓発を目指す学校クラブの活動に参加しました。学校クラブの運営方法だけでなく、早すぎる妊娠や児童婚など、女の子の出席率に影響を与えるデリケートな問題の取り扱い方も学びました。今後は、生理の正しい知識や暴力への対処方法を学ぶとともに、学校クラブに参加していない約22,200人の児童へも伝えていきます。



学校クラブに参加する子どもたち

- 教員向けの月経衛生管理に関するハンドブックが、**小学校125校**に配付されました。女の子だけではなく、男の子や地域の人々にも生理の正しい知識を提供するための教材です。知識と理解が広がることで、女の子が恥ずかしさや偏見を感じることなく学校に通えるようになり、出席率にも良い影響をもたらしています。

*ライフスキル：日常生活に生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な力

※地図上の国境線は図示的であり、その法的地位についてユニセフやユニセフ協会の立場を示すものではありません。